

2012年3月21日

WG 設置申請書

作成者：久田嘉章

1. 名称 英文名称は Sub Committee を付記	長周期地震動等への対策と 建築・エリアの即時対応 WG	英文 名称	Sub Committee for Effective Counter Measures of Building and Area against Large Scale Earthquake Disaster including Long-Period Ground Motion																																																																											
2. 所属本委員会 (所属運営委員会)	巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会																																																																													
3. 設置期間	2012年 4月 ～ 2014年 3月																																																																													
4. 設置目的	<p>(具体的な目標)</p> <p>駿河・南海トラフ沿いの海溝型巨大地震や首都直下地震など、近い将来に長周期地震動や震源近傍の強震動が大都市を襲う可能性が指摘されている。本 WG では、超高層建築など都市の重要施設を含む中心業務地区を対象として、耐震性能の向上と効果的な震災後の即時対応を可能にするための知見を取りまとめ、提言を行うことを目的とする。具体的なエリアとして新宿駅西口地域の超高層ビル街区を念頭に置き、震災後の機能継続と早期復旧を可能とするため、建物・エリア単位でのハード・ソフト両面での具体的な事前・事後対策を提案し、地域での啓蒙活動や防災訓練などにも活用するモデルケースを提示する。</p>																																																																													
5. 委員会の位置付け	<p>(学会に設置する必要性、緊急性、新規制及び委員会の性格)</p> <p>2011年東日本大震災では東京の震度は5であったにもかかわらず、帰宅困難者が溢れ、道路は渋滞し、首都機能は麻痺状態となった。今後想定される大規模地震災害に対する大都市の中心業務地区をどう守り、早期復旧を可能とするのか、建築学会に求められる社会的な期待は大きい。本 WG は、東日本大震災調査復興支援本部・研究提言部会の「首都」の検討課題とも一体となり活動する。</p>																																																																													
6. 委員会の構成 (確定している委員予定者名簿を記載のこと。必ず会員名簿を記入すること)	<p>(委員構成の考え方、分野別構成、地域性、公募制等)</p> <p>建築やエリアの震災対策と即時対応を可能とするため、構造系・設備系・建築計画系・都市系と幅広い委員構成としている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>会員番号</th> <th>役職</th> <th>氏名</th> <th>勤務先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8604599</td> <td>主査</td> <td>久田嘉章</td> <td>工学院大学 建築学部 まちづくり学科</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9618151</td> <td>幹事</td> <td>鱒沢 曜</td> <td>鱒沢工学研究所</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7222548</td> <td>委員</td> <td>田村和夫</td> <td>千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8417073</td> <td>委員</td> <td>飛田 潤</td> <td>名古屋大学 災害対策室</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>9103237</td> <td>委員</td> <td>西村 功</td> <td>東京都市大学 工学部 建築学科</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>8604125</td> <td>委員</td> <td>池田芳樹</td> <td>鹿島建設株式会社 建築設計本部</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>0013215</td> <td>委員</td> <td>久保智弘</td> <td>工学院大学 建築学部 まちづくり学科</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>9008966</td> <td>委員</td> <td>諏訪 仁</td> <td>大林組 技術研究所 構造技術研究部</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>0203098</td> <td>委員</td> <td>中城康彦</td> <td>明海大学 不動産学部</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>8610469</td> <td>委員</td> <td>齊藤広子</td> <td>明海大学 不動産学部</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>9714143</td> <td>委員</td> <td>村上正浩</td> <td>工学院大学 建築学部 まちづくり学科</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0029363</td> <td>委員</td> <td>増田幸宏</td> <td>豊橋科学技術大学 建築・都市システム学系</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>9625954</td> <td>委員</td> <td>稲垣景子</td> <td>横浜国立大学 都市イノベーション研究院</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>(加入予定)</td> <td>委員</td> <td>三好勝則</td> <td>工学院大学 建築学部 まちづくり学科</td> </tr> </tbody> </table>			No	会員番号	役職	氏名	勤務先	1	8604599	主査	久田嘉章	工学院大学 建築学部 まちづくり学科	2	9618151	幹事	鱒沢 曜	鱒沢工学研究所	3	7222548	委員	田村和夫	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科	4	8417073	委員	飛田 潤	名古屋大学 災害対策室	5	9103237	委員	西村 功	東京都市大学 工学部 建築学科	6	8604125	委員	池田芳樹	鹿島建設株式会社 建築設計本部	7	0013215	委員	久保智弘	工学院大学 建築学部 まちづくり学科	8	9008966	委員	諏訪 仁	大林組 技術研究所 構造技術研究部	9	0203098	委員	中城康彦	明海大学 不動産学部	10	8610469	委員	齊藤広子	明海大学 不動産学部	11	9714143	委員	村上正浩	工学院大学 建築学部 まちづくり学科	12	0029363	委員	増田幸宏	豊橋科学技術大学 建築・都市システム学系	13	9625954	委員	稲垣景子	横浜国立大学 都市イノベーション研究院	14	(加入予定)	委員	三好勝則	工学院大学 建築学部 まちづくり学科
No	会員番号	役職	氏名	勤務先																																																																										
1	8604599	主査	久田嘉章	工学院大学 建築学部 まちづくり学科																																																																										
2	9618151	幹事	鱒沢 曜	鱒沢工学研究所																																																																										
3	7222548	委員	田村和夫	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科																																																																										
4	8417073	委員	飛田 潤	名古屋大学 災害対策室																																																																										
5	9103237	委員	西村 功	東京都市大学 工学部 建築学科																																																																										
6	8604125	委員	池田芳樹	鹿島建設株式会社 建築設計本部																																																																										
7	0013215	委員	久保智弘	工学院大学 建築学部 まちづくり学科																																																																										
8	9008966	委員	諏訪 仁	大林組 技術研究所 構造技術研究部																																																																										
9	0203098	委員	中城康彦	明海大学 不動産学部																																																																										
10	8610469	委員	齊藤広子	明海大学 不動産学部																																																																										
11	9714143	委員	村上正浩	工学院大学 建築学部 まちづくり学科																																																																										
12	0029363	委員	増田幸宏	豊橋科学技術大学 建築・都市システム学系																																																																										
13	9625954	委員	稲垣景子	横浜国立大学 都市イノベーション研究院																																																																										
14	(加入予定)	委員	三好勝則	工学院大学 建築学部 まちづくり学科																																																																										

7. 活 動 計 画	<p>(活動の具体的方法、内容)</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 回程度開催し、以下の 6 つの課題を主テーマとして検討を行う。 ①性状実態把握：2011 年東日本大震災における都市の主要構造物（超高層建物、防災・医療機関、避難施設、免震・制振建物など）の揺れ、被害の実態調査結果を整理、耐震構造設計における性能予測精度の検証 ②耐震性能：人々の生活の安全・安心と建物・都市機能の継続という視点に立った、構造・非構造部材・ライフライン設備を含めた総合的な耐震性能評価法の検討と、実効性の高い耐震性能向上技術の開発 ③即時災害対応：緊急地震速報と連動させて建物の揺れをモニタリングし、即時の損傷判定と災害対応（在館や避難の判断、適切な館内放送など）を可能にするシステムを検討 ④被災実態把握：大都市特有の震災（帰宅困難者、渋滞、通信障害、湾岸埋め立て地域の液状化など）や、高層集合住宅に代表される大規模建物の居住者の被災後の行動、生活障害などの調査 ⑤DCP・地域連携：地域事業継続計画（DCP）やエリアマネジメントの策定とそれを実践するための地域連携による体制作りの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2012 年度大会の振動運営委員会の PD にて途中経過報告 ・ 新宿駅周辺地域防災対策協議会と連携し、新宿駅西口地域での研究会や防災訓練で、地域連携による即時被災度把握の実験を実施する ・ 本 WG の成果を活用し、東日本大震災調査復興支援本部・研究提言部会「首都」の第二次提言を公表 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 回程度開催し、引き続き 6 つの課題を主テーマとして検討を継続。 ・ 特別調査委員会と連携した成果報告会の開催（予定） ・ 特別調査委員会と連携した叢書出版への執筆（予定）
8. 期待される成果と公表方法	<p>(内容と公表形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2012 年度大会の振動運営委員会の PD にて途中経過報告 ・ 2012 年度末に、東日本大震災調査復興支援本部・研究提言部会と連携し、本 WG の成果を活用し、「首都」の第二次提言を公表 ・ 特別調査委員会と連携した成果報告会の開催（予定） ・ 特別調査委員会と連携した叢書出版への執筆（予定） ・ 成果の具体的な検討地域として、新宿駅周辺地域防災対策協議会と連携し、新宿駅西口地域を対象とし、研究会・講習会・防災訓練等で、地域連携による即時被災度把握等の実証実験を行う予定である。

注 1) 各項目に関して提示された事項に注目して記述してください。

注 2) 合同小委員会、研究会を設置する場合にもこの書式を準用してください。